

L^AT_EX のよく使うコマンド辞典

平木場風太

2016 年 12 月 4 日

目次

1	はじめに	2
2	文書構造	2
2.1	目次の表示	2
2.2	2 段組にする	2
2.3	見出し	2
2.4	改ページ	3
2.5	箇条書き	3
2.6	入力通りの出力	3
2.7	右寄せ・左寄せ・センタリング	4
2.8	脚注	4
2.9	参考文献の作成	4
3	フォント	5
3.1	書体	5
3.2	文字サイズ	5
3.3	文字色	5
4	枠・図・表	6
4.1	文章を枠で囲む	6
4.2	図	7
4.3	表	8
5	おわりに	8

1 はじめに

この文書は L^AT_EX で文書作成を行う際によく使うコマンド等をパパッと使えるようにまとめたものです。

2 文書構造

2.1 目次の表示

例

```
% 目次の表示
\tableofcontents
```

上のコマンドで目次が表示されます。この目次は、section コマンドや subsection コマンドに対応しています。コンパイルを 2 回行う必要があるので注意してください。この文書の目次も tableofcontents コマンドが使われています。

2.2 2 段組にする

例

```
\documentclass[twocolumn,10pt]{jarticle}
\setlength{\columnsep}{3zw}
```

2.3 見出し

コマンド	解説
<code>\section</code>	節 (セクション) 見出し
<code>\subsection</code>	小節 (サブセクション) 見出し
<code>\subsubsection</code>	小々節 (サブセクション) 見出し

例

```
\section{節見出し}
文章

\subsection{小節見出し}
文章

\subsubsection{小々節見出し}
文章
```

コマンド	解説
<code>\newpage</code>	改ページ
<code>\clearpage</code>	まだ出力していない図表を全部出力して改ページ

2.4 改ページ

2.5 箇条書き

箇条書きは以下の通りです。

コマンド	解説
<code>\itemize</code>	記号付き箇条書き
<code>\enumerate</code>	番号付き箇条書き
<code>\description</code>	見出し付き箇条書き

見出し付き箇条書き使用例

```
\begin{description}
  \item[日付] 2009 年 5 月 30 日
  \item[会場] 居酒屋 Snoopy
  \item[予算] 4,500 円
\end{description}
```

日付 2009 年 5 月 30 日

会場 居酒屋 Snoopy

予算 4,500 円

2.6 入力通りの出力

2.6.1 文章中の文字を入力通りに出力

L^AT_EX で文書中の文字を入力通りに出力するには `verb` コマンドを使用します。

例

```
\LaTeX で\verb|文章を途中で改行したい場合は //と書きます。|
```

L^AT_EX で文章を途中で改行したい場合は `//`と書きます。

2.6.2 別行立てにして入力通りに出力

L^AT_EX で別行立てにして入力通りに文書出力するには `verbatim` 環境を使用します。プログラムのソースコードなどを記述したい場合などに便利です。

例

```
\begin{verbatim}

#include <stdio.h>

int main(void) {
    printf("hello world\n");
    return 0;
}

\end{verbatim}
```

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(void) {
    printf("hello world\n");
    return 0;
}
```

2.7 右寄せ・左寄せ・センタリング

それぞれ `begin` コマンドと `end` コマンドで囲って使用してください。

コマンド	解説
<code>flushright</code>	右寄せ
<code>flushleft</code>	左寄せ
<code>center</code>	センタリング

2.8 脚注

脚注をページの下部に記載するには `\footnote` コマンドを使用します。注釈番号は省略可能です。注釈番号を省略した場合は自動的に番号が振られます。

一般形

```
\footnote[注釈番号]{テキスト}
```

2.9 参考文献の作成

後日作成します... 平成 28 年 11 月 13 日 (日)

3 フォント

3.1 書体

コマンド	解説	実行例
<code>\rm</code>	ローマン体 (標準)	ビーノ Beeno
<code>\bf</code>	ボールド体 (太字)	ビーノ Beeno
<code>\it</code>	イタリック体 (強調)	ビーノ <i>Beeno</i>
<code>\sf</code>	サンセリフ体	ビーノ Beeno
<code>\sl</code>	斜体	ビーノ <i>Beeno</i>
<code>\sc</code>	スモールキャップス (全部大文字)	ビーノ BEENO
<code>\tt</code>	タイプライタ体	ビーノ Beeno
<code>\gt</code>	ゴシック体 (日本語)	ビーノ Beeno
<code>\mc</code>	明朝体 (日本語)	ビーノ Beeno

3.2 文字サイズ

コマンド	サイズ	実行例
<code>\tiny</code>	5pt	ビーノ Beeno
<code>\scriptsize</code>	7pt	ビーノ Beeno
<code>\footnotesize</code>	8pt	ビーノ Beeno
<code>\small</code>	9pt	ビーノ Beeno
<code>\normalsize</code>	10pt(標準)	ビーノ Beeno
<code>\large</code>	12pt	ビーノ Beeno
<code>\Large</code>	14.4pt	ビーノ Beeno
<code>\LARGE</code>	17.28pt	ビーノ Beeno
<code>\huge</code>	20.74pt	ビーノ Beeno
<code>\Huge</code>	24.88pt	ビーノ Beeno

例

```
{\normalsize ビーノ Beeno}
```

3.3 文字色

文字色を変更するためには`\usepackage{color}`で color パッケージを追加する必要があります。デフォルトで使用可能な文字色は以下の通りです。

コマンド	色	実行例
black	黒	ビーノ Beeno
white	白	ビーノ Beeno
red	赤	ビーノ Beeno
green	緑	ビーノ Beeno
blue	青	ビーノ Beeno
cyan	シアン	ビーノ Beeno
magenta	マゼンタ	ビーノ Beeno
yellow	イエロー	ビーノ Beeno

一般形

```
\textcolor{文字色}{文字}
```

4 枠・図・表

4.1 文章を枠で囲む

文章を枠で囲むには`\usepackage{ascmac}`で `ascmac` パッケージを追加する必要があります。

4.1.1 itembox

`itembox` 環境を使用すると見出し付きの枠をつけることができます。

例

```
\begin{itembox}[c]{最大流最小切断定理}
  流れ $f$ の総流量を $\text{val}(f)$ , 切断 $K$ の容量を $\text{cap}(K)$ としたとき\\
  流れ $f$ と切断 $K$ が $\text{val}(f) = \text{cap}(K)$ を満たすならば, \\
   $f$ は最大流であり,  $K$ は最小切断である.
\end{itembox}
```

最大流最小切断定理

流れ f の総流量を $\text{val}(f)$, 切断 K の容量を $\text{cap}(K)$ としたとき
 流れ f と切断 K が $\text{val}(f) = \text{cap}(K)$ を満たすならば,
 f は最大流であり, K は最小切断である.

位置指定	意味
l	左寄せ
c	センタリング
r	右寄せ

4.1.2 itembox

screen 環境を使用すると見出しのない枠をつけることができます。

例

```
\begin{screen}
流れ $f$ の総流量を $val(f)$ , 切断 $K$ の容量を $cap(K)$ としたとき\\
流れ $f$ と切断 $K$ が $val(f) = cap(K)$ を満たすならば, \\
 $f$ は最大流であり,  $K$ は最小切断である.
\end{screen}
```

流れ f の総流量を $val(f)$, 切断 K の容量を $cap(K)$ としたとき
流れ f と切断 K が $val(f) = cap(K)$ を満たすならば,
 f は最大流であり, K は最小切断である.

4.2 図

L^AT_EX で図を出力するには, `\usepackage[dvips]{graphicx}` で graphicx パッケージ追加し, figure 環境と includegraphics コマンドを使用します。

よくある書き方

```
\begin{figure}[位置指定]
  \begin{center} % センタリングする
    \includegraphics[オプション]{ファイル名}
    \caption{タイトル名} % タイトルをつける
    \label{ラベル} % ラベルをつけ図の参照を可能にする
  \end{center}
\end{figure}
```

例

ビーノを図`\ref{fig:hamu}`に示す.

```
\begin{figure}[htbp]
  \begin{center}
    \includegraphics[clip,width=7.0cm]{./beeno.jpg}
    \caption{ビーノ}
    \label{fig:hamu}
  \end{center}
\end{figure}
```

ビーノを図 1 に示す.



図1 ビーノ

4.3 表

後日作成します... 平成 28 年 11 月 13 日 (日)

5 おわりに

とりあえず手元に紙ベースで欲しかったので作成しました。平成 28 年 11 月 13 日 (日)